

きらりのちは、「いのち」を大切に議案の1つ1つを判断します。反対理由は「討論」でしっかり述べています。録画や会議録でチェックを！

「実効性のない人権条例」

差別の具体的な規定も、救済・罰則規定もないため実効性がなく、相談機関や審議会の規定も不十分との多数のパブコメ意見。

「先行自治体より後退だ」との専門家からの強烈なダメだしがあっても、そのまま続行。人権行政の足を引っ張る(?) 恥ずかしい事態に、私たちは、議会での修正を提案していきます。

市民からも修正を求める陳情が出ています。議会は動くのでしょうか？

仰天「スカスカの基本構想」

基本構想は三鷹市の総合計画の最上位計画。12月議会に提案された新基本構想は、目標年次を2050年に長期化させ、具体的な内容は削除して、目次とキャッチコピーだけ。めざす「理念」は単なる「願い」でしかありません。

「人」や「市民」の姿が見えず、市が責任をもって計画を進めていこうとする意気込みも感じられません。私たちは修正案を提案しました。

井口グラウンド「ボール遊びがしたいのに！」

市は、井口グラウンドの南半分に市内の民間病院を誘致するとして、現在、市内の医療事業者に募集をかけています。

約22億円で50年契約してまで民間病院に貸付けようとする理由は、2017年に建設した三鷹中央防災公園・元気創造プラザの借金返済のためです。

しかし、これは駅前再開発や天文台など、さらなるハコモノ事業を認めることにつながります。だからこそ、市民の共有財産である井口グラウンドを手放してはならないのです。年間7万5千人が利用する、少年野球やサッカーなど子どもたちが思いっきり「ボール遊びのできる」グラウンドを市民の力で守りましょう！

高齢者用「福祉住宅」をなくすの？！

これまで30年間にわたって高齢者の生活を支えてきた「福祉住宅」を見直す方針を、市は打ち出しました。福祉住宅は公設で賃料が安く安心感があるだけでなく、生活協力員(ワーカー)の見守りや支援が保証されることで在宅での暮らしが継続できます。抽選の倍率は2桁もあり、市民ニーズの高い事業です。

ますます一人暮らしの高齢者が増える今こそ、30年間の実績を確認し、継続、拡充していくべきです。

牟礼4丁目ひよどり公園」がなくなるなんて・・・

2023年12月、ひよどり公園が廃止になることを知った近隣の市民が、わずか10日間で620名分の署名を集め、公園を閉園しないよう求める陳情を市議会に提出しました。「保育園児や子どもたちが多数利用していること」、「避難所としても重要であること」などが訴えられましたが、陳情は否決されてしまいました。市は、「借地公園の公有地化」を政策として掲げていますが、積極的に予算付けして購入しなければ、残る20の借地公園も失われてしまいます。

「緑と水の公園都市」を目指す三鷹市は、市民の声に耳を傾けるべきです。

「給食費無償化の落とし穴」

あらゆる議員がずっと言ってきた「給食費無償化」。ようやく2024年度から三鷹市も！ 喜ばしい出来事です！ しかし、喜ばしいことも束の間。代わりに、公立保育園4園を三鷹市直営から「公私連携」＝民営化へと検討するそうです。民営化になれば、働く保育士さんの給料や処遇、研修についての監視や注意が行き渡らなくなります。民営化された会社が倒産してしまったら、子どもたちは行き場を失います。子どもたちや働く人たちが犠牲になるようなことには反対です！

大沢だけの問題じゃない！ 義務教育学校って？

「羽沢・大沢台小学校廃校の危機！」

学校統廃合の問題は、まさに、「いのち」に関わる問題！ だからこそ私たちは反対しています。問題点は、ただ1つ。それは、この事業が未来を担う子どもたちのためを思って描いている構想でも、大沢地域全体の人々のためでもなく、一部の人たちの「まちづくりのためのまちづくり」だからです。

大沢の「国立天文台」北側敷地内の4.8haは、植物、昆虫や鳥、絶滅危惧種の生き物まで住んでいる土地。その竹や樹木を伐採して、羽沢小と大沢台小を統廃合し、西部図書館・学童保育所も合せて複合化した巨大施設「義務教育学校」を建設しようという事業。

そもそも、羽沢小学校は約40年前に大勢の市民の願いと活動によって誕生した、

念願の小学校です。羽沢小を浸水予測があるというだけで、治水対策や高床にするなどの検討も十分にしないまま廃校にするという乱暴な進め方。

これまでの三鷹での小・中一貫教育のメリット・デメリットの検証も無い。何より、統廃合も義務教育学校の設置も、教育委員会や地元でちゃんと話し合われたことがないのです。こんなことには、賛成できません！

「副市長が3人」

都内でも異例！

4年前は議会の反発で撤回したUR出身者を、異例の3人目の副市長にする議案。URは駅前再開発の施行者で利害関係者。議案提案の手続きも異例で、私たちも動議提出など、異例尽くしの対応。